

(様式第 10)

国循環病発番 17100501 号
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
理事長 小川 久

国立循環器病研究センターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|-----|--------------------------|
| 住 所 | 〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5-7-1 |
| 氏 名 | 国立研究開発法人国立循環器病研究センター |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

| |
|----------------------|
| 国立研究開発法人国立循環器病研究センター |
|----------------------|

3 所在の場所

| | |
|----------------|-----------------|
| 〒565-8565 | 電話(06)6833-5012 |
| 大阪府吹田市藤白台5-7-1 | |

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| |
|---|
| 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

| | |
|---|--|
| 内科 | <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 |
| 内科と組み合わせた診療科名等 | |
| 1呼吸器内科 2循環器内科 3神経内科 4心臓血管内科 5神経内科 6糖尿病・代謝内科 | |
| 7脳神経内科 8脳血管内科 | |
| 診療実績 | |

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

| | |
|---|---------|
| 外科 | (有) ・ 無 |
| 外科と組み合わせた診療科名 1心臓血管外科 2小児外科 | |
| 診療実績 | |

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| |
|---|
| ①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 16救急科 |
|---|

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

| | |
|--|---------|
| 歯科 | (有) ・ 無 |
| 歯科と組み合わせた診療科名 1 2 3 | |
| 歯科の診療体制 | |

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| |
|--|
| 1 リハビリテーション科 2 病理診断科 3 臨床遺伝科 4 周産期・婦人科 5 6 7 |
| 8 9 10 11 12 13 14 |
| 15 16 17 18 19 20 21 |

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| | | | | | |
|----|-----|----|----|------|------|
| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
| 床 | 床 | 床 | 床 | 612床 | 612床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-----------|------|------|--------|-----------|-----|-------------|------|
| 医 師 | 151人 | 132人 | 256.6人 | 看 護 補 助 者 | 19人 | 診療エックス線技師 | 0人 |
| 歯 科 医 師 | 1人 | 0人 | 1人 | 理 学 療 法 士 | 16人 | 臨床検査技師 | 69人 |
| 薬 剤 師 | 38人 | 6人 | 42.8人 | 作 業 療 法 士 | 4人 | 衛生検査技師 | 1人 |
| 保 健 師 | 0人 | 0人 | 0人 | 視 能 訓 練 士 | 1人 | その他 | 0人 |
| 助 産 師 | 14人 | 1人 | 14.8人 | 義 肢 装 具 士 | 0人 | あん摩マッサージ指圧師 | 0人 |
| 看 護 師 | 642人 | 7人 | 647.6人 | 臨 床 工 学 士 | 18人 | 医療社会事業従事者 | 4人 |
| 准 看 護 師 | 0人 | 0人 | 0人 | 栄 養 士 | 4人 | その他の技術員 | 0人 |
| 歯 科 衛 生 士 | 1人 | 0人 | 1人 | 歯 科 技 工 士 | 0人 | 事 務 職 員 | 201人 |
| 管 理 栄 養 士 | 5人 | 0人 | 5人 | 診療放射線技師 | 44人 | その他の職員 | 98人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

| 専門医名 | 人 数 | 専門医名 | 人 数 |
|---------------|-----|-----------------|-----|
| 総合内科専門医 | 34人 | 眼 科 専 門 医 | 0人 |
| 外 科 専 門 医 | 15人 | 耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医 | 0人 |
| 精 神 科 専 門 医 | 0人 | 放 射 線 科 専 門 医 | 6人 |
| 小 児 科 専 門 医 | 10人 | 脳 神 経 外 科 専 門 医 | 9人 |
| 皮 膚 科 専 門 医 | 1人 | 整 形 外 科 専 門 医 | 0人 |
| 泌 尿 器 科 専 門 医 | 0人 | 麻 酔 科 専 門 医 | 10人 |
| 産 婦 人 科 専 門 医 | 7人 | 救 急 科 専 門 医 | 1人 |
| | | 合 計 | 93人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (峰松 一夫) 任命年月日 平成28年 4月 1日

平成22年4月1日に当センター副院長に就任し、就任時より安全管理部長を兼任しており医療安全管理の業務を経験している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|--------|-------|--------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 480.6人 | 0人 | 480.6人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 404.9人 | 10.0人 | 414.9人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 1307 剤 | | |
| 必要医師数 | 81人 | | |
| 必要歯科医師数 | 1人 | | |
| 必要薬剤師数 | 17人 | | |
| 必要(准)看護師数 | 255人 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設備概要 | | | |
|----------|---|----------|-----------------------------------|-----|---------|-----------|
| 集中治療室 | 1,215.97m ² | 鉄筋コンクリート | 病床数 | 40床 | 心電計 | 有・無 |
| | | | 人工呼吸装置 | 有・無 | 心細動除去装置 | 有・無 |
| | | | その他の救急蘇生装置 | 有・無 | ペースメーカー | 有・無 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] 床面積 113.7m ² [移動式の場合] 台数 台 | | 病床数 | 4床 | | |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床積 51.9m ² [共用室の場合] 共用する室名 | | | | | |
| 化学検査室 | 264 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 全自動臨床検査システム、尿分析装置 | | | |
| 細菌検査室 | 85.2 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) PCR検査システム、パルスフィールド電気泳動システム | | | |
| 病理検査室 | 114 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 電気泳動装置、自動染色装置 | | | |
| 病理解剖室 | 45.6 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 電子顕微鏡、超低温フリーザー | | | |
| 研究室 | 7121.3m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) SPECT/CT、タンパク質ペプチド質量分析装置 | | | |
| 講義室 | 707.4m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 5室 | 収容定員 | 475人 |
| 図書室 | 579 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 1室 | 蔵書数 | 48,000冊程度 |

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| | | | | |
|------|------------------------|-------|------|--------|
| | 紹介率 | 89.2% | 逆紹介率 | 93.2 % |
| 算出根拠 | A: 紹介患者の数 | | | 6,891人 |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | | | 9,255人 |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | | | 1,966人 |
| | D: 初診の患者の数 | | | 9,929人 |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|------------------|---------------|---------------------|---------------------------------------|---------------|
| 小島 崇宏 | 大阪M&A法律事務所 | ○ | 法律に関する識見を有する | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 1 |
| 國子 克雄 | 心を守る会(患者代表) | | 医療を受ける者の代表 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 2 |
| 友田 恒一 | 奈良県立医科大学附属病院 | | 医療に係る安全管理に関する識見を有する | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 1 |
| 安田 聡 | 国立循環器病研究センター副院長 | | 医療安全部外の立場から監査 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 3 |
| 中瀬 邦彦 | 国立循環器病研究センター監査室長 | | 医療安全部外の立場から監査 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | 3 |

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

| | |
|--------------------|--|
| 委員名簿の公表の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 |
| 委員の選定理由の公表の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 |
| 公表の方法 病院ホームページにて公表 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|-------------------|-------|
| 骨髄細胞移植による血管新生療法 | 0人 |
| 末梢血単核球移植による血管再生治療 | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|------------------------|-------|
| アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法 | 7人 |
| 経胎盤的抗不整脈薬投与療法 | 0人 |
| 急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法 | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|---|----------------------|-------|----|
| 医療技術名 | アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法 | 取扱患者数 | 7人 |
| 当該医療技術の概要 睡眠中発症及び発症時刻不明の急性脳梗塞患者に対し、アルテプラゼ0.6mg/kgを用いた静脈血栓溶解療法の安全性と有効性を、標準内科治療群との他施設共同非盲検群間比較法を用いて評価する。 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|----|----------------------------|-----|-----|----------------------|-----|
| 1 | 球脊髄性筋萎縮症 | 56 | | ベーチェット病 | 6 |
| 2 | 筋萎縮性側索硬化症 | 1 | 57 | 特発性拡張型心筋症 | 517 |
| 3 | 脊髄性筋萎縮症 | | 58 | 肥大型心筋症 | 90 |
| 4 | 原発性側索硬化症 | | 59 | 拘束型心筋症 | 2 |
| 5 | 進行性核上性麻痺 | 2 | 60 | 再生不良性貧血 | 6 |
| 6 | パーキンソン病 | 40 | 61 | 自己免疫性溶血性貧血 | 5 |
| 7 | 大脳皮質基底核変性症 | 1 | 62 | 発作性夜間ヘモグロビン尿症 | |
| 8 | ハンテントン病 | | 63 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 10 |
| 9 | 神経有棘赤血球症 | | 64 | 血栓性血小板減少性紫斑病 | |
| 10 | シャルコー・マリー・トゥース病 | | 65 | 原発性免疫不全症候群 | 2 |
| 11 | 重症筋無力症 | 3 | 66 | IgA腎症 | |
| 12 | 先天性筋無力症候群 | | 67 | 多発性嚢胞腎 | |
| 13 | 多発性硬化症/視神経脊髄炎 | 6 | 68 | 黄色靱帯骨化症 | |
| 14 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー | | 69 | 後縦靱帯骨化症 | 4 |
| 15 | 封入体筋炎 | | 70 | 広範脊柱管狭窄症 | 1 |
| 16 | クロー・深瀾症候群 | | 71 | 特発性大腿骨頭壊死症 | |
| 17 | 多系統萎縮症 | | 72 | 下垂体性ADH分泌異常症 | |
| 18 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) | 4 | 73 | 下垂体性TSH分泌亢進症 | |
| 19 | ライソゾーム病 | | 74 | 下垂体性PRL分泌亢進症 | |
| 20 | 副腎白質ジストロフィー | | 75 | クッシング病 | 1 |
| 21 | ミトコンドリア病 | 1 | 76 | 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症 | |
| 22 | もやもや病 | 255 | 77 | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 | |
| 23 | プリオン病 | | 78 | 下垂体前葉機能低下症 | |
| 24 | 亜急性硬化性全脳炎 | | 79 | 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | |
| 25 | 進行性多巣性白質脳症 | | 80 | 甲状腺ホルモン不応症 | |
| 26 | HTLV-1関連脊髄症 | | 81 | 先天性副腎皮質酵素欠損症 | |
| 27 | 特発性基底核石灰化症 | | 82 | 先天性副腎低形成症 | |
| 28 | 全身性アミロイドーシス | 3 | 83 | アジソン病 | 5 |
| 29 | ウルリッヒ病 | | 84 | サルコイドーシス | 47 |
| 30 | 遠位型ミオパチー | | 85 | 特発性間質性肺炎 | 4 |
| 31 | ベスレムミオパチー | | 86 | 肺動脈性肺高血圧症 | 148 |
| 32 | 自己食細胞性ミオパチー | | 87 | 肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症 | 1 |
| 33 | シュワルツ・ヤンペル症候群 | | 88 | 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 232 |
| 34 | 神経線維腫症 | | 89 | リンパ脈管筋腫症 | |
| 35 | 天疱瘡 | | 90 | 網膜色素変性症 | |
| 36 | 表皮水疱症 | | 91 | バッド・キアリ症候群 | |
| 37 | 膿疱性乾癬(汎発型) | | 92 | 特発性門脈圧亢進症 | 1 |
| 38 | スティーヴンス・ジョンソン症候群 | | 93 | 原発性胆汁性肝硬変 | 8 |
| 39 | 中毒性表皮壊死症 | | 94 | 原発性硬化性胆管炎 | |
| 40 | 高安動脈炎 | 13 | 95 | 自己免疫性肝炎 | 3 |
| 41 | 巨細胞性動脈炎 | | 96 | クローン病 | 4 |
| 42 | 結節性多発動脈炎 | 3 | 97 | 潰瘍性大腸炎 | 16 |
| 43 | 顕微鏡的多発血管炎 | 4 | 98 | 好酸球性消化管疾患 | |
| 44 | 多発血管炎性肉芽腫症 | | 99 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 | |
| 45 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | | 100 | 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症 | |
| 46 | 悪性関節リウマチ | 3 | 101 | 腸管神経節細胞減少症 | |
| 47 | バージャー病 | 43 | 102 | ルビンシュタイン・テイビ症候群 | |
| 48 | 原発性抗リン脂質抗体症候群 | 2 | 103 | GFC症候群 | |
| 49 | 全身性エリテマトーデス | 42 | 104 | コステロ症候群 | |
| 50 | 皮膚筋炎/多発性筋炎 | 6 | 105 | チャージ症候群 | |
| 51 | 全身性強皮症 | 3 | 106 | クリオピリン関連周期熱症候群 | |
| 52 | 混合性結合組織病 | 2 | 107 | 全身型若年性特発性関節炎 | |
| 53 | シェーグレン症候群 | 3 | 108 | TNF受容体関連周期性症候群 | |
| 54 | 成人スチル病 | 2 | 109 | 非典型溶血性尿毒症症候群 | |
| 55 | 再発性多発軟骨炎 | | 110 | ブラウ症候群 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| 患者数 | 疾患名 | 患者数 | 疾患名 | 患者数 |
|-----|----------------------------|-----|--------------------|-----|
| 111 | 先天性ミオパチー | 161 | 家族性良性慢性天疱瘡 | |
| 112 | マリネスコ・シェーグレン症候群 | 162 | 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) | |
| 113 | 筋ジストロフィー | 163 | 特発性後天性全身性無汗症 | |
| 114 | 非ジストロフィー性ミオトニー症候群 | 164 | 眼皮膚白皮症 | |
| 115 | 遺伝性周期性四肢麻痺 | 165 | 肥厚性皮膚骨膜炎 | |
| 116 | アトピー性脊髄炎 | 166 | 弾性線維性仮性黄色腫 | |
| 117 | 脊髄空洞症 | 167 | マルファン症候群 | 31 |
| 118 | 脊髄髄膜瘤 | 168 | エーラス・ダンロス症候群 | 5 |
| 119 | アイザックス症候群 | 169 | メンケス病 | |
| 120 | 遺伝性ジストニア | 170 | オクシピタル・ホーン症候群 | |
| 121 | 神経フェリチン症 | 171 | ウィルソン病 | |
| 122 | 脳表ヘモジデリン沈着症 | 172 | 低ホスファターゼ症 | |
| 123 | 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症 | 173 | VATER症候群 | |
| 124 | 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症 | 174 | 那須・ハコラ病 | |
| 125 | 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症 | 175 | ウィーバー症候群 | |
| 126 | ペリー症候群 | 176 | コフィン・ローリー症候群 | |
| 127 | 前頭側頭葉変性症 | 177 | 有馬症候群 | |
| 128 | ピッカースタッフ脳幹脳炎 | 178 | モワット・ウィルソン症候群 | |
| 129 | 痙攣重積型(二相性)急性脳症 | 179 | ウィリアムズ症候群 | |
| 130 | 先天性無痛無汗症 | 180 | ATR-X症候群 | |
| 131 | アレキサンダー病 | 181 | クルーゾン症候群 | |
| 132 | 先天性核上性球麻痺 | 182 | アペール症候群 | |
| 133 | メビウス症候群 | 183 | ファイファー症候群 | |
| 134 | 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群 | 184 | アントレー・ピクスラー症候群 | |
| 135 | アイカルディ症候群 | 185 | コフィン・シリス症候群 | |
| 136 | 片側巨脳症 | 186 | ロスムンド・トムソン症候群 | |
| 137 | 限局性皮質異形成 | 187 | 歌舞伎症候群 | |
| 138 | 神経細胞移動異常症 | 188 | 多脾症候群 | |
| 139 | 先天性大脳白質形成不全症 | 189 | 無脾症候群 | |
| 140 | ドラベ症候群 | 190 | 鰓耳腎症候群 | |
| 141 | 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん | 191 | ウェルナー症候群 | |
| 142 | ミオクロニー欠神てんかん | 192 | コケイン症候群 | |
| 143 | ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん | 193 | ブラダー・ウィリ症候群 | |
| 144 | レノックス・ガストー症候群 | 194 | ソトス症候群 | |
| 145 | ウエスト症候群 | 195 | ヌーナン症候群 | 2 |
| 146 | 大田原症候群 | 196 | ヤング・シンブソン症候群 | |
| 147 | 早期ミオクロニー脳症 | 197 | 1p36欠失症候群 | |
| 148 | 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん | 198 | 4p欠失症候群 | |
| 149 | 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群 | 199 | 5p欠失症候群 | |
| 150 | 環状20番染色体症候群 | 200 | 第14番染色体父親性ダイソミー症候群 | |
| 151 | ラスムッセン脳炎 | 201 | アンジェルマン症候群 | |
| 152 | PCDH19関連症候群 | 202 | スミス・マギニス症候群 | |
| 153 | 難治顔回部分発作重積型急性脳炎 | 203 | 22q11.2欠失症候群 | |
| 154 | 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症 | 204 | エマヌエル症候群 | |
| 155 | ランドウ・クレフナー症候群 | 205 | 脆弱X症候群関連疾患 | |
| 156 | レット症候群 | 206 | 脆弱X症候群 | |
| 157 | スタージ・ウェーバー症候群 | 207 | 総動脈幹遺残症 | |
| 158 | 結節性硬化症 | 208 | 修正大血管転位症 | |
| 159 | 色素性乾皮症 | 209 | 完全大血管転位症 | 2 |
| 160 | 先天性魚鱗癬 | 210 | 単心室症 | 1 |

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | 疾患名 | 患者数 |
|-----|------------------------------|-----|----------------------------|-----|
| 211 | 左心低形成症候群 | | レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症 | 259 |
| 212 | 三尖弁閉鎖症 | 1 | シトステロール血症 | 260 |
| 213 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 | | タンジール病 | 261 |
| 214 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症 | | 原発性高カイトロミクロン血症 | 262 |
| 215 | ファロー四徴症 | 5 | 脳腫黄色腫症 | 263 |
| 216 | 両大血管右室起始症 | 8 | 無βリポタンパク血症 | 264 |
| 217 | エプスタイン病 | 1 | 脂肪萎縮症 | 265 |
| 218 | アルポート症候群 | | 家族性地中海熱 | 266 |
| 219 | ギャロウェイ・モワト症候群 | | 高IgD症候群 | 267 |
| 220 | 急速進行性糸球体腎炎 | 2 | 中條・西村症候群 | 268 |
| 221 | 抗糸球体基底膜腎炎 | | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群 | 269 |
| 222 | 一次性ネフローゼ症候群 | | 慢性再発性多発性骨髄炎 | 270 |
| 223 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 | | 強直性脊椎炎 | 271 |
| 224 | 紫斑病性腎炎 | | 進行性骨化性線維異形成症 | 272 |
| 225 | 先天性腎性尿崩症 | | 肋骨異常を伴う先天性側弯症 | 273 |
| 226 | 間質性膀胱炎(ハンナ型) | | 骨形成不全症 | 274 |
| 227 | オスラー病 | | タナトフォリック骨異形成症 | 275 |
| 228 | 閉塞性細気管支炎 | | 軟骨無形成症 | 276 |
| 229 | 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性) | | リンパ管腫症/ゴーハム病 | 277 |
| 230 | 肺胞低換気症候群 | | 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変) | 278 |
| 231 | α1-アンチトリプシン欠乏症 | | 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変) | 279 |
| 232 | カーニー複合 | | 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変) | 280 |
| 233 | ウォルフラム症候群 | | クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群 | 281 |
| 234 | ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。) | | 先天性赤血球形成異常性貧血 | 282 |
| 235 | 副甲状腺機能低下症 | 5 | 後天性赤芽球癆 | 283 |
| 236 | 偽性副甲状腺機能低下症 | | ダイヤモンド・ブラックファン貧血 | 284 |
| 237 | 副腎皮質刺激ホルモン不応症 | | ファンコニ貧血 | 285 |
| 238 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 | | 遺伝性鉄芽球性貧血 | 286 |
| 239 | ビタミンD依存性くる病/骨軟化症 | | エプスタイン症候群 | 287 |
| 240 | フェニルケトン尿症 | | 自己免疫性出血病XIII | 288 |
| 241 | 高チロシン血症1型 | | クロンカイト・カナダ症候群 | 289 |
| 242 | 高チロシン血症2型 | | 非特異性多発性小腸潰瘍症 | 290 |
| 243 | 高チロシン血症3型 | | ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸) | 291 |
| 244 | メープルシロップ尿症 | | 総排泄腔外反症 | 292 |
| 245 | プロピオン酸血症 | | 総排泄腔遺残 | 293 |
| 246 | メチルマロン酸血症 | | 先天性横隔膜ヘルニア | 294 |
| 247 | イソ吉草酸血症 | | 乳幼児肝巨大血管腫 | 295 |
| 248 | グルコーストランスポーター1欠損症 | | 胆道閉鎖症 | 296 |
| 249 | グルタル酸血症1型 | | アラジール症候群 | 297 |
| 250 | グルタル酸血症2型 | | 遺伝性膀胱炎 | 298 |
| 251 | 尿素サイクル異常症 | | 嚢胞性線維症 | 299 |
| 252 | リジン尿性蛋白不耐症 | | IgG4関連疾患 | 300 |
| 253 | 先天性葉酸吸収不全 | | 黄斑ジストロフィー | 301 |
| 254 | ボルフィリン症 | | レーベル遺伝性視神経症 | 302 |
| 255 | 複合カルボキシラーゼ欠損症 | | アッシャー症候群 | 303 |
| 256 | 筋型糖原病 | | 若年発症型両側性感音難聴 | 304 |
| 257 | 肝型糖原病 | | 遅発性内リンパ水腫 | 305 |
| 258 | ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症 | | 好酸球性副鼻腔炎 | 306 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|-----|----------------------------------|-----|-----|-------------------------------|-----|
| 307 | カナバン病 | | 319 | セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症 | |
| 308 | 進行性白質脳症 | | 320 | 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症 | |
| 309 | 進行性ミオクローヌスてんかん | | 321 | 非ケトーシス型高グリシン血症 | |
| 310 | 先天異常症候群 | | 322 | β -ケトチオラーゼ欠損症 | |
| 311 | 先天性三尖弁狭窄症 | | 323 | 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症 | |
| 312 | 先天性僧帽弁狭窄症 | | 324 | メチルグルタコン酸尿症 | |
| 313 | 先天性肺静脈狭窄症 | | 325 | 遺伝性自己炎症疾患 | |
| 314 | 左肺動脈右肺動脈起始症 | | 326 | 大理石骨病 | |
| 315 | ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症 | | 327 | 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。) | |
| 316 | カルニチン回路異常症 | | 328 | 前眼部形成異常 | |
| 317 | 三頭酵素欠損症 | | 329 | 無虹彩症 | |
| 318 | シトリン欠損症 | | 330 | 先天性気管狭窄症 | |

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|--------------------------------|------------------------------------|
| ・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7:1 | ・脳卒中ケアユニット入院医療管理料 |
| ・救急医療管理加算 | ・小児入院医療管理料2 (5階東病棟のみプレイルーム加算あり) |
| ・超急性期脳卒中加算 | ・ |
| ・妊産婦緊急搬送入院加算 | ・ |
| ・診療録管理体制加算1 | ・ |
| ・医師事務作業補助体制加算1 (40:1) | ・ |
| ・急性期看護補助体制加算 25対1 (看護補助者50%未満) | ・ |
| ・看護職員夜間12対1配置加算2 | ・ |
| ・重症者等療養環境特別加算 | ・ |
| ・無菌治療室管理加算1 | ・ |
| ・栄養サポートチーム加算 ※歯科医師連携加算あり | ・ |
| ・医療安全対策加算1 | ・ |
| ・感染防止対策加算1 (感染防止対策地域連携加算) | ・ |
| ・患者サポート体制充実加算 | ・ |
| ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | ・ |
| ・ハイリスク妊娠管理加算 | ・ |
| ・ハイリスク分娩管理加算 | ・ |
| ・病棟薬剤業務実施加算1 | ・ |
| ・病棟薬剤業務実施加算2 | ・ |
| ・退院支援加算 注4・地域連携診療計画加算 有り | ・ |
| ・認知症ケア加算2 | ・ |
| ・データ提出加算2 | ・ |
| ・特定集中治療室管理料1 (小児加算あり) | ・ |
| ・特定集中治療室管理料3 (小児加算あり) | ・ |
| ・ハイケアユニット入院医療管理料1 | ・ |
| ・新生児特定集中治療室管理料1 | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|-------------------------------|---|
| ・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行期加算) | ・神経学的検査 |
| ・糖尿病合併症管理料 | ・画像診断管理加算1 |
| ・移植後患者指導管理料 | ・ポジトロン断層撮影 |
| ・糖尿病透析予防指導管理料 | ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 |
| ・夜間休日救急搬送医学管理料 | ・CT撮影及びMRI撮影 |
| ・外来リハビリテーション診療料 | ・無菌製剤処理料 |
| ・ニコチン依存症管理料 | ・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ) | ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・薬剤管理指導料 | ・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・医療機器安全管理料1 | ・処置の休日加算1 |
| ・医療機器安全管理料2 | ・処置の時間外加算1 |
| ・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料 | ・処置の深夜加算1 |
| ・診療情報提供料(Ⅰ)の注14に掲げる地域連携診療計画加算 | ・一酸化窒素吸入療法 |
| ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定 | ・手術の休日加算1 |
| ・造血器腫瘍遺伝子検査 | ・手術の時間外加算1 |
| ・遺伝学的検査 | ・手術の深夜加算1 |
| ・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) | ・経皮的冠動脈形成術 |
| ・検体検査管理加算(Ⅰ) | ・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) |
| ・検体検査管理加算(Ⅳ) | ・経皮的冠動脈ステント留置術 |
| ・国際標準検査管理加算 | ・経皮的経カテーテル大動脈弁置換術 |
| ・血管内視鏡検査加算 | ・経皮的中隔心筋焼灼術 |
| ・植込型心電図検査 | ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |
| ・時間内歩行試験 | ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術 |
| ・胎児心エコー法 | ・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 |
| ・ヘッドアップティルト試験 | ・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術 |
| ・皮下連続式グルコース測定 | ・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの) |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|--|---------|
| ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術、 | ・ |
| ・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)、 | ・ |
| ・補助人工心臓、 | ・ |
| ・小児補助人工心臓、 | ・ |
| ・植込型補助人工心臓(非拍動流型)、 | ・ |
| ・同種心移植術、 | ・ |
| ・同種心肺移植術、 | ・ |
| ・経皮的動脈遮断術、 | ・ |
| ・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術、 | ・ |
| ・胎児胸腔・羊水腔シャント術、 | ・ |
| ・輸血管管理料(I)、 | ・ |
| ・凍結保存同種組織加算、 | ・ |
| ・麻酔管理料(I)、 | ・ |
| ・麻酔管理料(II)、 | ・ |
| ・病理診断管理加算2、 | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|----------|----------|
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |
| . | . |

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|--|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 1週間に1回程度 |
| 剖 検 の 状 況 | 剖検症例数 43例 / 剖検率 24.7% |

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|--------|-----------|------------|------------------|
| 組織の適切な供給体制構築のための基盤構築に向けた研究 | 藤田 知之 | 心臓血管外科 | 2,800,000 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 非肥満者に対する保健指導方法の開発に関する研究 | 宮本 恵宏 | 予防検診部 | 6,462,000 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 先天性心疾患児の成人期以降も含めた長期予後の把握のあり方に関する研究 | 白石 公 | 小児循環器部 | 5,250,000 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 周産期(産褥性)心筋症の早期診断検査確立研究の継続と診断ガイドライン作成 | 神谷 千津子 | 周産期・産婦人科部 | 1,131,000 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 乳児特発性僧坊弁膜索断裂の多彩な病因に基づいた治療法の確立に向けた研究 | 白石 公 | 小児循環器部 | 3,847,000 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 電子カルテ情報をセマンティクス(意味・内容)の標準化により分析可能なデータに変換するための研究 | 宮本 恵宏 | 予防検診部 | 13,082,000 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 心筋細胞における一次シリアを介した心外膜腔内流れ感知システムの解明 | 福井 一 | 細胞生物学部 | 2,500,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 生動物の求心性神経2光子イメージングによる皮膚温度センシング機構のシステム同定 | 神谷 厚範 | 循環動態制御部 | 3,500,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 研究倫理の質向上、機能強化、支援促進のための共有・共通基盤の整備に関する研究 | 松井 健志 | 医学倫理研究室 | 8,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 左右非対称形成の解明—Hippoシグナルと新規調節因子の同定— | 望月 直樹 | 副所長 | 17,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 細胞外マトリックス除去機構の破綻に基づくアルツハイマー病の病態解明と新規抗腫化療法の開発 | 猪原 匡史 | 脳神経内科 | 4,890,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 虚血性心疾患における心筋特異的ミオシン軽鎖およびリン酸化の意義とその治療への展開 | 北風 政史 | 臨床研究部 | 4,600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 心血管系の発生・形態形成に働くシグナル伝達機構の研究 | 中川 修 | 分子生理学部 | 3,900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 次世代型自家組織由来心臓弁グラフト(バイオバルブ)の開発研究 | 武輪 能明 | 人工臓器部 | 3,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 広領域循環シミュレータによる脳血管血行再建術支援のための血流制御機構の解明 | 片岡 大治 | 集中治療部 | 2,500,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 医療の質向上と発症予測モデル開発のための包括的循環器疾患登録プラットフォーム構築 | 安田 聡 | 心臓血管内科部門 | 2,900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 光造形と体内造形の融合による自家組織バイオバルブ心臓弁の開発とTAVIへの展開 | 中山 泰秀 | 生体医工学部 | 3,000,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 自律神経システム自動医療の開発と適応拡張、および自動循環管理との統合的実用化 | 神谷 厚範 | 循環動態制御部 | 2,600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| バイファンクショナル分子によるポリ乳酸スキャフォールド内部への組織浸透誘導 | 山岡 哲二 | 生体医工学部 | 3,600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 間歇的低酸素時の肺マクロファージβ3受容体による肺循環調節での肺交感神経の役割 | 白井 幹康 | 心臓生理機能部 | 1,900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 都市部地域住民を対象とする潜在性心不全の実態とリスクスコア作成に関する疫学研究 | 小久保 喜弘 | 予防健診部 | 10,600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 消化管ペプチドによる新たな循環調節機構と多様な作用の解明 | 宮里 幹也 | 生化学部 | 6,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|-----------|-----------|-------------|
| 選択的除神経法による運動昇反反射メカニズムの解明 | 土持 裕胤 | 心臓生理機能部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 多機能面からのリポ蛋白質リパーゼ分子診断による動脈硬化の早期診断・予防システム構築 | 高木 敦子 | 分子薬理部 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 抑うつに対する両側性刺激の基礎的研究 | 山内 美穂 | 画像診断医学部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| カルシウムシグナル調節を介した新規代謝制御機構の解明 | 西谷 友重 | 分子生理部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 拡張期心不全の病態生理の解明と前臨床試験を見据えた新しい実験モデルの開発 | 高濱 博幸 | 心臓血管内科部 | 1,500,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| $\alpha 2$ アドレナリン受容体作動薬を用いた新しい心不全薬物治療の開発 | 清水 秀二 | 循環動態制御部 | 1,000,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 遺伝性洞性徐脈の新規因子同定および予防医学への応用 | 山崎 悟 | 細胞生物学部 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 妊娠高血圧症候群に合併した周産期心筋症の発症機序と血管障害性マーカーの探索研究 | 神谷 千津子 | 周産期・婦人科部 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 急性心筋梗塞に対する再灌流後短期的迷走神経刺激治療法の確立 | 稲垣 正司 | 循環動態制御部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 高磁場核磁気共鳴法とポジトロン断層法を用いた冠動脈プラークの定量的画像診断の構築 | 野口 輝夫 | 冠疾患科 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| HDLの質は心血管病の治療ターゲットとして有望か？ | 小倉 正恒 | 病態代謝部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 遺伝性不整脈疾患における突然死リスクの新しい非侵襲的評価法の開発 | 相庭 武司 | 不整脈科 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 新たな活性検出法を用いた新規生理活性ペプチドの同定による新しい生体調節機構の解明 | 森 健二 | 生化学部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| $\beta 3$ インテグリン機能発現におけるキンドリンの役割解明と新たな因子の探索・同定 | 本田 繁則 | 分子病態部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 乳児特異性糖糖弁膜断裂の病因研究－母親由来抗SSA抗体による組織障害について | 白石 公 | 小児循環器部 | 1,500,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| ニューロングリア-血管連関に基づく多発性硬化症の多変量PET解析基盤構築研究 | 天満 敬 | 画像診断医学部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 急性期脳幹動脈閉塞に対する血行再建療法の適応基準策定に関する研究 | 早川 幹人 | 脳血管内科部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 成熟心筋細胞の恒常性維持に対するポリコム遺伝子群の機能解析 | 白井 学 | 分子生物学部 | 1,000,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 特異性心室細胞の不整脈基質に関する多面的解析とアブレーション治療に関する検討 | 永瀬 聡 | 不整脈科 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| ヒト造血幹細胞におけるESAMの発現とその意義 | 石橋 知彦 | 血管生理学部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| パーチャル心臓とベクトル心電図の4次元構成的手法による不整脈の発生部位同定 | 中沢 一雄 | 研究情報基盤管理室 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| ノックインマウスを用いたヒト遺伝性心筋症の病態形成メカニズム解明と治療薬の検討 | 杜 成坤 | 心臓生理機能部 | 1,600,000 | 補委 科学研究費補助金 |

計 22

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|------------|------------|-----------|-------------|
| 心再生医療のための脱細胞化冠動脈網内腔の再内皮化 | 山岡 哲二 | 生体医工学部 | 1,000,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 口腔内細菌に起因する出血性脳卒中の病理理解とモデル動物の作成 | 猪原 匡史 | 脳神経内科 | 2,000,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| βB1-クリスタリン単独欠損ハムスターの創出とその心臓病研究への応用 | 阪本 英二 | 血管生理学部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 都市部地域住民を対象とした体温とメタボリックシンドローム及び死因に関する追跡研究 | 小久保 喜弘 | 予防健診部 | 2,700,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| マクロからミクロまでを同一評価可能とする心室粘性測定法の開発 | 尖戸 稔聡 | 研究推進支援部 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 初期2型糖尿病ラットでの拡張期末の心筋収縮タンパク質分子動態異常の放射光解析 | 白井 幹康 | 心臓生理機能部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 骨新生因子が仲介する骨-脂肪組織連関メカニズムの解明 | 高野 晴子 | 細胞生物学部 | 6,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 研究倫理コンサルテーションの調査と試行に基づく事例集積モデル構築 | 會澤 久仁子 | 予防医学・疫学情報部 | 700,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 肺動脈性肺高血圧におけるヒト剖検心からの右室心筋病理の解析 | 岩朝 徹 | 小児循環器部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| ドナー凍結iPS細胞由来の配偶子の生殖利用に関する倫理的・法的问题の検討 | 遠矢 和希 | 医学倫理研究室 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 臨床試験における不確実下の合理的意思決定とリスクの定量化・可視化の統計的方法 | 朝倉 こう子 | DM/統計室 | 1,000,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 生体内病因物質の捕捉・異所代謝経路への誘導を行うキメラタンパク薬剤の設計開発 | 神戸 裕介 | 生体医工学部 | 800,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 転写共役因子Vgll2を介した新規運動制御機構の基礎的解析 | 本多 賢彦 | 分子生物学部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 小胞体ストレスで発動するDerlin-3の分子機能と細胞保護効果の解明 | 口 由佳(江浦由佳) | 分子病態部 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| Ca2+負荷モデルマウスで発症する心肥大不全に対する効果的な薬物運動療法の研究 | 金 美花 | 心臓生理機能部 | 1,600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 血管新生および血管安定化における血管内皮細胞の4Dカルシウムイメージング解析 | 中嶋 洋行 | 細胞生物学部 | 1,700,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| PCSK9の形態が家族性高コレステロール血症や肥満・糖尿病に及ぼす影響の解明 | 堀 美香 | 病態代謝部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 免疫応答に着目した心臓サルコイドーシスに対する新規診断法およびリスク層別法の開発 | 永井 利幸 | 心臓血管内科 | 700,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 間葉系幹細胞培養上清を用いた新規動脈硬化性疾患の治療法の開発及び作用機序の解明 | 高藤 義正 | 病態代謝部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 冠動脈血栓症の病態解明と予防法の確立 | 大塚 文之 | バイオバンク | 800,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 胎児心疾患における胎児心不全時の胎盤形態機能変化及び予知マーカー開発に関する研究 | 三好 剛一 | 周産期・婦人科部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| PET検査における入力関数測定の新規手法の開発と応用 | 井口 智史 | 画像診断医学部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|------------|-----------|-------------|
| 急性心腎症候群の早期腎不全治療を目的としたカテーテル式補助循環装置の実用化研究 | 住倉 博仁 | 人工臓器部 | 3,500,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 炎症性シグナルと血管保護シグナルによる肺高血圧症発症の制御機構の解明 | 中岡 良和 | 血管生理学部 | 5,000,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 心不全ラットにおける水代謝病態解明及び飲水行動制御による治療効果の検討 | 鄭 燦 | 循環動態制御部 | 500,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| ADAM/ADAMTSプロテアーゼによる基質認識と制御機構の構造生物学的研究 | 武田 壮一 | 心臓生理機能部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| アンフィビアスに至る脊椎動物の進化モデル動物のグレリンシステムの変遷 | 海谷 啓之 | 生化学部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| pH調節トランスポーターNHE1から発信される感局所pHシグナルの形成機構の解明 | 久光 隆 | 分子生理学部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 循環器疾患の予防に向けた性差に基づく脂質管理に関する研究 | 竹上 未紗 | 予防医学・疫学情報部 | 800,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 大規模コホートに基づく個別化されたリスク予測ツール、バイオマーカーの有用性の研究 | 西村 邦宏 | 予防医学・疫学情報部 | 1,000,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 生活習慣病における血管内皮特異的オートファジー制御機構の解明 | 林 真一郎 | 高血圧・腎臓部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 特異性拡張型心筋症における樹状細胞の心筋浸潤および成熟化の臨床的意義 | 菅野 康夫 | 心臓血管内科部門 | 800,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 迷走神経刺激による心筋幹細胞の賦活化を利用した新規心臓再生治療法の開発 | 李 梅花 | 循環動態制御部 | 1,000,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 心臓ナトリウム利尿ペプチドを用いた新しい周産期心筋症治療法の開発 | 大谷 健太郎 | 再生医療部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 不安定動脈硬化巣を検出する核磁気共鳴法を用いた新たな冠動脈・分子画像診断法の開発 | 浅海 泰栄 | 心臓血管内科部門 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 心筋型ミオシン軽鎖キナーゼを創薬標的とした新たな血管作動薬の開発 | 瀬口 理 | 移植部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 心筋症・心不全発症機構の伸展刺激感受性イオンチャネル機能解析からの解明 | 岩田 裕子 | 分子生理学部 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 心房性ナトリウム利尿ペプチドの血管保護作用を応用した癌細胞転移抑制機構 | 細田 洋司 | 再生医療部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| インドシアニンググリーンを用いた局所脳血流測定法の確立に関する研究 | 吉谷 健司 | 手術部 | 700,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 不育症と妊娠高血圧症候群の遺伝的背景に関する研究 | 根木 玲子 | 周産期・婦人科部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| モノアミン動態への薬理的介入による虚血・再灌流時心筋細胞傷害軽減の検討 | 秋山 剛 | 心臓生理機能部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 敗血症性ショックの循環管理、根本治療を自動最適化するコンピュータ制御システム開発 | 上村 和紀 | 循環動態制御部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 高分子MRI造影剤による脳微細血管網イメージング技術の開発 | 馬原 淳 | 生体医工学部 | 1,500,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 酸化LDL動態イメージングに基づく新しい抗動脈硬化機構の解明 | 中野 厚史 | 血管生理学部 | 800,000 | 補委 科学研究費補助金 |

計 22

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|---------|-----------|-------------|
| 血中ADAMTS13のクリアランス機構の解明 | 秋山 正志 | 分子病態部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 心筋分化過程における転写因子複合体と標的遺伝子の変化 | 渡邊 裕介 | 分子生理部 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 地域一般集団と脳卒中症例の比較による終末糖化産物ペプトシジンの医学的意義の検討 | 渡邊 至 | 予防健診部 | 600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 生活習慣・認知機能と血中脳由来神経栄養因子の関連－住民集団での断面・縦断的検討－ | 東山 綾 | バイオバンク | 1,600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 肺癌に特徴的な生体内切断で活性化される分泌・膜蛋白質を同定するペプチドミクス | 佐々木 一樹 | 分子薬理部 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 頭蓋内動脈解離の治療選択と臨床転播に関する臨床的・凝血学的検討 | 古賀 政利 | 脳血管内科部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| Rhoキナーゼを基軸とした新規食欲・脂肪蓄積制御因子の探索と機能解析 | 吉田 守克 | 生化学部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 血栓性リスクとなるプロテインS K196E異常症に関する研究 | 宮田 敏行 | 分子病態部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 新生児期・乳児期発症重度QT延長症候群のてんかん・発達障害合併に関する研究 | 宮崎 文 | 小児循環器部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| MRIによる脳機能イメージングの低酸素性虚血性脳症の予後予測への応用 | 園見 純一郎 | 画像診断医学部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 肺癌手術及び抗がん剤治療に対するANPを用いた新規併用治療法の確立 | 野尻 崇 | 生化学部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 急性ラクナ梗塞に対するPETとトラクトグラフィを用いた新たな病態解明 | 横田 千晶 | 脳血管内科部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| オキシム誘導体ナノパーティクルによる心筋再生効果の検討 | 福嶋 五月 | 心臓外科部 | 0 | 補委 科学研究費補助金 |
| GPR40－インクレチンシグナル系による新規の脂肪肝・脂質代謝異常改善機構の解明 | 富田 努 | バイオバンク | 1,587,673 | 補委 科学研究費補助金 |
| 細胞周期依存的な新しいホルモン作用切り換え機構の発見とその役割の解明 | 波多江 利久 | 分子薬理部 | 800,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 自己組織由来心臓弁(バイオバルブスメント)によるカテーテル的移植の可能性の検討 | 武輪 能明 | 人工臓器部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 新規手法による心血管発生・形態形成関連因子の機能解析 | 中川 修 | 分子生理部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 免疫吸着療法に代わる自己抗体選択的除去ナノ分子システムによる拡張型心筋症の治療 | 姜 貞勲 | 生体医工学部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 脂肪酸修飾構造に基づく新規生理活性ペプチドの系統的探索と機能解析 | 宮里 幹也 | 生化学部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| Biotube 成長への挑戦 ～若齢ビーグル犬モデルの作製から実証へ～ | 古越 真耶 | 生体医工学部 | 800,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 生体内組織形成術を基盤とする自己再生型造形シヤント用代用血管の開発 | 中山 泰秀 | 生体医工学部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 生動物2光子イメージングとMEMS神経マシンによる迷走神経終末動態の解明 | 神谷 厚範 | 循環動態制御部 | 1,400,000 | 補委 科学研究費補助金 |

計 22

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------|------------|------------|-------------|
| 小児医療をめざす小口径心臓弁の開発:皮下でつくる心臓弁の組織制御に関する研究 | 船山 麻理菜 | 臨床研究部 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 体外式心臓補助装置の人工肺におけるガス交換性能管理支援システムの開発 | 西垣 孝行 | 臨床工学部 | 600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| iPS細胞のソーティングに伴う構傷の評価:細胞ローリングカラムを用いた比較検討 | 大高 晋之 | 生体医工学部 | 600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 好中球のRhoキナーゼ活性で冠動脈病変の進行と病態を予測する事ができるか? | 渡邊 琢也 | 予防健診部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 体温と血流量を指標とした睡眠改善物質探索のための新規アッセイ法 | 小川 優子 | 再生医療部 | 400,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 遺伝性脳小血管病におけるアクテン代謝異常の分子メカニズムの解明と新規治療法の開発 | 山本 由美 | 再生医療部 | 1,600,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| BMP-ALK1シグナル下流伝子Tmem100による心血管形成機構の解明 | 片山 由美 | 分子生理学部 | 1,500,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 核医学的手法を用いた降外作用指向型新規GLP-1アナログの開発 | 近藤 直哉 | 画像診断医学部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 近赤外線分光法を用いた定量的脳血流量によるくも膜下出血後脳血管収縮の評価 | 加藤 真也 | 手術部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 小動物による補助人工心臓モデルの循環システムの構築と心機能解析 | 竹下 大輔 | 人工臓器部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 血管新生因子に基づいた硬膜動脈脈管新規治療の確立 | 伊藤 嘉朗 | 脳神経外科 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 蛍光イメージングによる血管新生での先端内皮細胞の一方性移動の制御機構の解析 | 若山 勇紀 | 細胞生物学部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 医療ビッグデータ活用による心血管プレジジョン医療の実現 | 中尾 葉子 | 予防医学・疫学情報部 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 組織非蓄積性高分子MRI造影剤による移植iPS細胞トラッキング | 徐 ユイ | 生体医工学部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 冠動脈硬化形成におけるPGSKの役割の解明 | 片岡 有 | 心臓血管内科 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| C型ナトリウム利尿ペプチド(CNP)の脂質・エネルギー代謝における新たな役割 | ベ チョロン | 生化学部 | 1,100,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 心臓分子イメージング国際共同研究による心不全個別化医療戦略の構築 | 樋口 隆弘 | 研究所 | 2,700,000 | 補委 科学研究費補助金 |
| 世界に先駆けた革新的新薬・医療機器創出のための臨床試験拠点整備事業 | 巽 英介 | 副院長 | 30,000,000 | 補委 AMED |
| 国産医療機器創出基盤整備等事業 | 赤川 英毅 | 副院長 | 2,727,000 | 補委 AMED |
| | | | | 補委 |
| | | | | 補委 |
| | | | | 補委 |

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|-----------------------|--|--|------------------|
| 1 | Ogawa H, Isshiki T, Kimura T他 | 理事長 | Effects of CYP2C19 allelic variants on inhibition of platelet aggregation and major adverse cardiovascular events in Japanese patients with acute coronary syndrome: The PRASFIT-ACS study | Journal of Cardiology.2016JUL-AUG;68:29-36 | Original Article |
| 2 | Kobayashi J, Shimahara Y, Fujita T他 | 副院長 | Early Results of Simultaneous Transaortic Transcatheter Aortic Valve Implantation and Total Arterial Off-Pump Coronary Artery Revascularization in High-Risk Patients | Circulation Journal.2016SEP;80:1946-1950 | Original Article |
| 3 | Yasuda S, Nakao K, Nishimura K 他 | 副院長 | The Current Status of Cardiovascular Medicine in Japan - Analysis of a Large Number of Health Records From a Nationwide Claim-Based Database, JROAD-DPC | Circulation Journal.2016NOV;80:2327-2335 | Original Article |
| 4 | Toyoda K, Koga M, Sato S | 脳血管内科部 部長 | What are the next breakthroughs in the management of acute intracerebral hemorrhage? | International Journal of Stroke.2016JUN;11:386-388 | Original Article |
| 5 | Nagatsuka K, Miyata S, Kada A他 | 診療支援部 診療支援部長 | Cardiovascular events occur independently of high on-aspirin platelet reactivity and residual COX-1 activity in stable cardiovascular patients | Thrombosis and Haemostasis.2016AUG;116:356-368 | Original Article |
| 6 | Fukuda T, Ogo T, Nakanishi N 他 | 放射線部 部長 | Evaluation of organized thrombus in distal pulmonary arteries in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension using cone-beam computed tomography | Japanese Journal of Radiology.2016JUN;34:423-431 | Original Article |

| | | | | | |
|----|--|---------------------|---|---|------------------|
| 7 | Minatoya K, Seike Y, Itonaga T他 | 血管外科部 部長 | Straight incision for extended descending and thoracoabdominal aortic replacement: novel and simple exposure with rib-cross thoracotomy | Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery.2016SEP;23: 367-370 | Original Article |
| 8 | Ito S, Asakura M, Liao YL他 | 臨床研究部 臨床研究企画室長 | Identification of the Mtus1 Splice Variant as a Novel Inhibitory Factor Against Cardiac Hypertrophy | Journal of the American Heart Association.2016JUL;5: e003521 | Original Article |
| 9 | Iwata Y, Suzuki N, Ohtake H他 | 分子生理部 蛋白質機能研究室長 | Cancer cachexia causes skeletal muscle damage via transient receptor potential vanilloid 2-independent mechanisms, unlike muscular dystrophy | Journal of Cachexia Sarcopenia and Muscle.2016JUN;7: 366-376 | Original Article |
| 10 | Uemura K, Kawada T, Zheng C他 | 循環動態制御部 循環動態研究室長 | Less Invasive and Inotrope-Reduction Approach to Automated Closed-Loop Control of Hemodynamics in Decompensated Heart Failure | IEEE Transactions on Biomedical Engineering.2016AUG; 63:1699-1708 | Original Article |
| 11 | Ogura M, Makino H, Kamiya C他 | 病態代謝部 脂質代謝研究室長 | Lipoprotein apheresis is essential for managing pregnancies in patients with homozygous familial hypercholesterolemia: Seven case series and discussion | Atherosclerosis.2016NO V;254:179-183 | Original Article |
| 12 | Nakayama Y, Satow T, Funayama M 他 | 生体医工学部 医工学材料研究室長 | Construction of 3 animal experimental models in the development of honeycomb microporous covered stents for the treatment of large wide-necked cerebral aneurysms | Journal of Artificial Organs.2016JUN;19: 179-187 | Original Article |
| 13 | Nakayama Y, Kaneko Y, Takewa Y他 | 生体医工学部 医工学材料研究室長 | Mechanical properties of human autologous tubular connective tissues (human biotubes) obtained from patients undergoing peritoneal dialysis | Journal of Biomedical Materials Research Part B-Applied Biomaterials.2016OCT; 104:1431-1437 | Original Article |
| 14 | Nakamura TY, Nakao S, Wakabayashi S | 分子生理部 生体膜生理研究室長 | Neuronal Ca ²⁺ sensor-1 contributes to stress tolerance in cardiomyocytes via activation of mitochondrial detoxification pathways | Journal of Molecular and Cellular Cardiology.2016OCT; 99:23-34 | Original Article |

| | | | | | |
|----|--|--------------------|--|---|------------------|
| 15 | Nojiri T, Hosoda H, Zenitani M他 | 生化学部 ペプチド創薬研究室長 | Atrial natriuretic peptide protects against cisplatin-induced granulocytopenia | Cancer Chemotherapy and Pharmacology.2016JUL; 78:191-197 | Original Article |
| 16 | Nojiri T, Hosoda H, Kimura T他 | 生化学部 ペプチド創薬研究室長 | Protective effects of ghrelin on cisplatin-induced nephrotoxicity in mice | Peptides.2016AUG;82: 85-91 | Original Article |
| 17 | Okazawa M, Abe H, Nakanishi S | 血管生理学部 血管病態研究室長 | The Etv1 transcription factor activity-dependently downregulates a set of genes controlling cell growth and differentiation in maturing cerebellar granule cells | Biochemical and Biophysical Research Communications.2016MAY;473:1071-1077 | Original Article |
| 18 | Hori M, Onaya H, Hiraoka N他 | 病態代謝部 動脈硬化研究室長 | Evaluation of the degree of pancreatic fatty infiltration by area-based assessment of CT images: comparison with histopathology-based and CT attenuation index-based assessments | Japanese Journal of Radiology.2016OCT;34: 667-676 | Original Article |
| 19 | Ohuchi H, Hayama Y, Negishi J他 | 小児循環器科 医長 | Heart failure with preserved right ventricular ejection fraction in postoperative adults with congenital heart disease: A subtype of severe right ventricular pathophysiology | International Journal of Cardiology.2016JUN; 212:223-231 | Original Article |
| 20 | Okamura H, Friedman PA, Inoue Y他 | 不整脈科 医長 | Single-Coil Defibrillator Leads Yield Satisfactory Defibrillation Safety Margin in Hypertrophic Cardiomyopathy | Circulation Journal.2016OCT;80: 2199-2203 | Original Article |
| 21 | Koga M, Yoshimura S, Hasegawa Y 他 | 脳卒中集中治療科 医長 | Higher Risk of Ischemic Events in Secondary Prevention for Patients With Persistent Than Those With Paroxysmal Atrial Fibrillation | Stroke.2016OCT;47: 2582-2588 | Original Article |
| 22 | Seguchi O, Fujita T, Murata Y他 | 移植医療部 医長 | Incidence, etiology, and outcome of primary graft dysfunction in adult heart transplant recipients: a single-center experience in Japan | Heart and Vessels.2016APR;31: 555-562 | Original Article |

| | | | | | |
|----|---|------------------------------|---|---|------------------|
| 23 | Makino H, Tanaka A, Hosoda H他 | 動脈硬化・糖尿病内科 医長 | Effect of basal insulin therapy on vascular endothelial function and adipokine profiles in people with Type 2 diabetes | Diabetic Medicine.2016DEC;33:1737-1743 | Original Article |
| 24 | Yokota C, Sawamura T, Watanabe M 他 | 脳血管内科 脳血管リハビリテーション科 医長 | High Levels of Soluble Lectin-Like Oxidized Low-Density Lipoprotein Receptor-1 in Acute Stroke: An Age- and Sex-Matched Cross-Sectional Study | Journal of Atherosclerosis and Thrombosis.2016OCT;23:1222-1226 | Original Article |
| 25 | Iwashima Y, Fukuda T, Yoshihara F 他 | 高血圧・腎臓科 医長 | Incidence and risk factors for restenosis, and its impact on blood pressure control after percutaneous transluminal renal angioplasty in hypertensive patients with renal artery stenosis | Journal of Hypertension.2016JUL;34:1407-1415 | Original Article |
| 26 | Ohara T, Koga M, Tokuda N他 | 脳血管内科 医長 | Rapid Identification of Type A Aortic Dissection as a Cause of Acute Ischemic Stroke | Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases.2016AUG;25:1901-1906 | Original Article |
| 27 | Kishimoto I, Makino H, Ohata Y他 | 糖尿病・代謝内科 医長 | Impact of B-type natriuretic peptide (BNP) on development of atrial fibrillation in people with Type 2 diabetes | Diabetic Medicine.2016AUG;33:1118-1124 | Original Article |
| 28 | Ohta N, Hori M, Takahashi A他 | 臨床検査部 遺伝子主任 | Proprotein convertase subtilisin/kexin 9 V41 variant with LDLR mutations modifies the phenotype of familial hypercholesterolemia | Journal of Clinical Lipidology.2016JUN;10:547-555 | Original Article |
| 29 | Arakawa T, Kumasaka L, Nakanishi M 他 | 冠疾患科 医師 | Regional Clinical Alliance Path and Cardiac Rehabilitation After Hospital Discharge for Acute Myocardial Infarction Patients in Japan - A Nationwide Survey | Circulation Journal.2016AUG;80:1750-1755 | Original Article |

| | | | | | |
|----|--|----------|---|--|------------------|
| 30 | Okada A, Nakajima I, Morita Y他 | 心不全科 医師 | Diagnostic Value of Right Ventricular Dysfunction in Tachycardia-Induced Cardiomyopathy Using Cardiac Magnetic Resonance Imaging | Circulation Journal.2016OCT;80: 2141-2148 | Original Article |
| 31 | Okada A, Sugano Y, Nagai T他 | 心不全科 医師 | Prognostic Value of Prothrombin Time International Normalized Ratio in Acute Decompensated Heart Failure – A Combined Marker of Hepatic Insufficiency and Hemostatic Abnormality | Circulation Journal.2016APR;80: 913-923 | Original Article |
| 32 | Kawakami S, Tahara Y, Noguchi T他 | 冠疾患科 医師 | Time to Reperfusion in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction Patients With vs. Without Pre-Hospital Mobile Telemedicine 12-Lead Electrocardiogram Transmission | Circulation Journal.2016JUL;80: 1624-1633 | Original Article |
| 33 | Kawamoto N, Fujita T, Hata H他 | 心臓外科部 医師 | Prosthesis-patient mismatch due to small ring annuloplasty in patients with degenerative mitral insufficiency | Journal of Cardiology.2016JUL-AUG;68:141-147 | Original Article |
| 34 | Nakajima S, Seguchi O, Fujita T他 | 移植対策室 医師 | Successful treatment of near-fatal fulminant myocarditis using bi-ventricular assist device support | Journal of Artificial Organs.2016SEP;19: 293-296 | Original Article |
| 35 | Hamatani Y, Ishibashi- Ueda H, Nagai T他 | 心不全科 医師 | Pathological Investigation of Congenital Bicuspid Aortic Valve Stenosis, Compared with Atherosclerotic Tricuspid Aortic Valve Stenosis and Congenital Bicuspid Aortic Valve Regurgitation | PLoS One.2016AUG; 11:e0160208 | Original Article |
| 36 | Fukui S, Ogo T, Takaki H 他 | 肺循環科 医師 | Efficacy of cardiac rehabilitation after balloon pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension | Heart.2016SEP;102: 1403-1409 | Original Article |

| | | | | | |
|----|---|-----------|---|---|------------------|
| 37 | Fujino M, Takahama H, Hamasaki T 他 | 冠疾患科 医師 | Risk stratification based on nutritional screening on admission: Three-year clinical outcomes in hospitalized patients with acute heart failure syndrome | Journal of Cardiology.2016NOV-DEC;68:392-398 | Original Article |
| 38 | Maeda T, Takeuchi M, Tachibana K 他 | 輸血管理室 医師 | Steroids Improve Hemodynamics in Infants With Adrenal Insufficiency After Cardiac Surgery | Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia.2016AUG; 30:936-941 | Original Article |
| 39 | Maeda T, Sakurai R, Nakagawa K 他 | 輸血管理室 医師 | Cardiac Resynchronization Therapy-Induced Cardiac Index Increase Measured by Three-Dimensional Echocardiography Can Predict Decreases in Brain Natriuretic Peptide | Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia.2016JUN; 30:599-605 | Original Article |
| 40 | Miyamoto K, Aiba T, Arihiro S他 | 不整脈科 医師 | Impact of renal function deterioration on adverse events during anticoagulation therapy using non-vitamin K antagonist oral anticoagulants in patients with atrial fibrillation | Heart and Vessels.2016AUG;31: 1327-1336 | Original Article |
| 41 | Miyamoto K, Noda T, Satomi K他 | 不整脈科 医師 | Larger low voltage zone in endocardial unipolar map compared with that in epicardial bipolar map indicates difficulty in eliminating ventricular tachycardia by catheter ablation | Heart and Vessels.2016AUG;31: 1337-1346 | Original Article |
| 42 | Nagai T, Nishimura K, Honma T他 | 心臓血管内科 医師 | Prognostic significance of endogenous erythropoietin in long-term outcome of patients with acute decompensated heart failure | European Journal of Heart Failure.2016JUL; 18:803-813 | Original Article |
| 43 | Nagai T, Honda Y, Sugano Y他 | 心臓血管内科 医師 | Circulating Omega-6, But Not Omega-3 Polyunsaturated Fatty Acids, Are Associated with Clinical Outcomes in Patients with Acute Decompensated Heart Failure | PLoS One.2016NOV; 11:e0165841 | Original Article |

| | | | | | |
|----|--|--------------|---|--|------------------|
| 44 | Hashimoto T, Hayakawa M, Funatsu N他 | 脳血管内科 医師 | Histopathologic Analysis of Retrieved Thrombi Associated With Successful Reperfusion After Acute Stroke Thrombectomy | Stroke.2016DEC;47:3035-3037 | Original Article |
| 45 | Honda Y, Nagai T, Iwakami N他 | 心臓血管内科 医師 | Usefulness of Geriatric Nutritional Risk Index for Assessing Nutritional Status and Its Prognostic Impact in Patients Aged ≥65 Years With Acute Heart Failure | American Journal of Cardiology.2016AUG;118:550-555 | Original Article |
| 46 | Honda S, Nagai T, Sugano Y他 | 心臓血管内科 医師 | Prevalence, determinants, and prognostic significance of delirium in patients with acute heart failure | International Journal of Cardiology.2016NOV;222:521-527 | Original Article |
| 47 | Hashimoto T, Yokota C, Koshino K他 | 脳血管内科 医師 | Cerebral blood flow and metabolism associated with cerebral microbleeds in small vessel disease | Annals of Nuclear Medicine.2016AUG;30:494-500 | Original Article |
| 48 | Kawakami S, Takaki H, Hashimoto S 他 | 冠疾患科 医師 | Utility of High-Resolution Magnetocardiography to Predict Later Cardiac Events in Nonischemic Cardiomyopathy Patients With Normal QRS Duration | Circulation Journal.2017JAN;81:44-51 | Original Article |
| 49 | Amaki M, Konagai N, Fujino M他 | 心不全科 医師 | Report of the American Heart Association (AHA) Scientific Sessions 2016, New Orleans | Circulation Journal.2017JAN;81:22-27 | Original Article |
| 50 | Ishigami A, Yokota C, Nishimura K 他 | 脳血管内科 医師 | Delivering Knowledge of Stroke to Parents Through Their Children Using a Manga for Stroke Education in Elementary School | Journal of Stroke and Cerebrovascular Disease.2017FEB;26:431-437 | Original Article |
| 51 | Kakuta T, Hoashi T, Sakaguchi H 他 | 心臓血管外科 レジデント | Early Single Institutional Experience of Berlin Heart EXCOR (R) Pediatric Ventricular Assist Device in Japan | Circulation Journal.2016DEC;80:2552-2554 | Original Article |

| | | | | | |
|----|---|------------------|---|---|------------------|
| 52 | Shigyo H, Kawarada O, Noguchi T他 | 心臓血管内科 専門修練医 | Axillo-femoral bypass steal due to subclavian artery stenosis | Heart and Vessels.2016NOV;31: 1886-1888 | Original Article |
| 53 | Yokokawa T, Sugano Y, Nakayama T 他 | 心臓血管内科 専門修練医 | Significance of myocardial tenascin-C expression in left ventricular remodelling and long-term outcome in patients with dilated cardiomyopathy | European Journal of Heart Failure.2016APR; 18:375-385 | Original Article |
| 54 | Morimoto N, Jinno C, Mahara A他 | 生体医工学部 研修生 | The Alteration of the Epidermal Basement Membrane Complex of Human Nevus Tissue and Keratinocyte Attachment after High Hydrostatic Pressurization | Biomed Research International.2016SEP (オンライン);:1320909 | Original Article |
| 55 | Yasui T, Masaki T, Arita Y他 | 血管生理学部 研修生 | Molecular Characterization of Striated Muscle-Specific Gab1 Isoform as a Critical Signal Transducer for Neuregulin-1/ErbB Signaling in Cardiomyocytes | PLoS One.2016NOV; 11:e0166710 | Original Article |
| 56 | Honda Y, Nagai T, Ikeda Y他 | 心臓血管内科 研修生 | Myocardial Immunocompetent Cells and Macrophage Phenotypes as Histopathological Surrogates for Diagnosis of Cardiac Sarcoidosis in Japanese | Journal of the American Heart Association.2016NOV; 5:e004019 | Original Article |
| 57 | Shimizu S, Kawada T, Une D他 | 循環動態制御部 上級研究員 | Partial cavopulmonary assist from the inferior vena cava to the pulmonary artery improves hemodynamics in failing Fontan circulation: a theoretical analysis | Journal of Physiological Sciences.2016MAY;66: 249-255 | Original Article |
| 58 | Nakamura M, Iso H, Kitamura A他 | 予防健診部 臨床検査技師 | Comparison between the triglycerides standardization of routine methods used in Japan and the chromotropic acid reference measurement procedure used by the CDC Lipid Standardization Programme | Annals of Clinical Biochemistry.2016NOV; 53:632-639 | Original Article |

| | | | | | |
|----|---|----------------------|---|--|------------------|
| 59 | Fukumitsu M, Kawada T, Shimizu S他 | 循環動態制御部 研究員 | Development of a servo pump system for in vivo loading of pathological pulmonary artery impedance on the right ventricle of normal rats | American Journal of Physiology-Heart and Circulatory Physiology.2016APR; 310:H973-H983 | Original Article |
| 60 | Fukumitsu M, Kawada T, Shimizu S他 | 循環動態制御部 研究員 | Effects of Proximal Pulmonary Artery Occlusion on Pulsatile Right Ventricular Afterload in Rats | Circulation Journal.2016SEP;80: 2010-2018 | Original Article |
| 61 | Miyata T, Uchida Y, Yoshida Y他 | 豊田脳血管内科部長付 研究員 | No association between dysplasminogenemia with p.Ala620Thr mutation and atypical hemolytic uremic syndrome | International Journal of Hematology.2016AUG; 104:223-227 | Original Article |
| 62 | Inagaki T, Akiyama T, Du CK他 | 血管生理学部 上級研究員 | Monoamine oxidase-induced hydroxyl radical production and cardiomyocyte injury during myocardial ischemia-reperfusion in rats | Free Radical Research.2016JUN;50: 645-653 | Original Article |
| 63 | Nishigori M, Yagi H, Mochiduki A 他 | 創薬オミックス解析センター 研究員 | Multiomics Approach to Identify Novel Biomarkers for Dilated Cardiomyopathy: Proteome and Transcriptome Analyses of 4C30 Dilated Cardiomyopathy Mouse Model | Biopolymers.2016JUL; 106:491-502 | Original Article |
| 64 | Mukai Y, Wada K, Fujimoto M他 | 薬剤部 薬剤師 | Long-term impact of therapeutic drug monitoring on the risk of hypoglycemia in HOCM patients on cibenzoline therapy | International Journal of Clinical Pharmacology and Therapeutics.2016OCT; 54:795-803 | Original Article |
| 65 | Ando K, Fukuhara S, Izumi N他 | 細胞生物学部 流動研究員 | Clarification of mural cell coverage of vascular endothelial cells by live imaging of zebrafish | Development.2016APR; 143:1328-1339 | Original Article |
| 66 | Sumikura H, Nakayama Y, Ohnuma K他 | 人工臓器部 特任研究員 | Development of a stent-biovalve with round-shaped leaflets: in vitro hydrodynamic evaluation for transcatheter pulmonary valve implantation (TPVI) | Journal of Artificial Organs.2016DEC;19: 357-363 | Original Article |

| | | | | | |
|----|--|-----------------------|---|--|------------------|
| 67 | Zenitani M, Nojiri T, Uehara S他 | 生化学部 流動研究員 | C-type natriuretic peptide in combination with sildenafil attenuates proliferation of rhabdomyosarcoma cells | Cancer Medicine.2016MAY;5:795-805 | Original Article |
| 68 | Naito N, Nishimura T, Takewa Y他 | 人工臓器部 研究員 | What Is the Optimal Setting for a Continuous-Flow Left Ventricular Assist Device in Severe Mitral Regurgitation? | Artificial Organs.2016NOV;40:1039-1045 | Original Article |
| 69 | Fujii Y, Shirai M, Takewa Y 他 | 人工臓器部 特任研究員 | Cardiopulmonary Bypass with Low-Versus High-Priming Volume: Comparison of Inflammatory Responses in a Rat Model | Asaio Journal.2016MAY-JUN;62:286-290 | Original Article |
| 70 | Ogawa M, Fujita T, Fukushima N 他 | 移植医療部 組織移植コーディネーター | Regional Survey of Tissue Donation Among the General Public and Medical Staffs Around Osaka, Japan | Transplantation Proceedings.2016SEP;48:2423-2428 | Original Article |
| 71 | Nagai-Okatani C, Minamino N, | 分子薬理部 流動研究員 | Aberrant Glycosylation in the Left Ventricle and Plasma of Rats with Cardiac Hypertrophy and Heart Failure | PLoS One.2016JUN;11:e0150210 | Original Article |
| 72 | Inoue Y, Minatoya K, Oda T他 | 血管外科 血管外科医師 | Surgical outcomes for acute type A aortic dissection with aggressive primary entry resection | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery.2016SEP;50:567-573 | Original Article |
| 73 | Naito N, Mizuno T, Nishimura T 他 | 人工臓器部 研究員 | Influence of a Rotational Speed Modulation System Used With an Implantable Continuous-Flow Left Ventricular Assist Device on von Willebrand Factor Dynamics | Artificial Organs.2016SEP;40:877-883 | Original Article |
| 74 | Inoue Y, Minatoya K, Itonaga T他 | 血管外科 医師 | Utility of Proximal Stepwise Technique for Acute Aortic Dissection Involving the Aortic Root | Annals of Thoracic Surgery.2016MAY;101:e183-e185 | Others |
| 75 | Nadahama T, Kawarada O, Shibata K他 | 心臓血管内科 レジデント | Stenting for Juxtarenal Abdominal Aortic Occlusion | JACC: Cardiovascular Interventions.2016APR;9:856-858 | Others |

| | | | | | |
|----|--|-----------|---|--|--------|
| 76 | Seguchi O, Kuroda K, Fujita T他 | 移植医療部 医長 | Advanced heart failure secondary to muscular dystrophy: Clinical outcomes after left ventricular assist device implantation | Journal of Heart and Lung Transplantation.2016JUN;35:831-834 | Letter |
| 77 | Ohuchi H | 小児循環器科 医長 | Adult patients with Fontan circulation: What we know and how to manage adults with Fontan circulation? | Journal of Cardiology.2016SEP-OCT 2016;68:181-189 | Review |
| 78 | Kamiya CA, Yoshimatsu J, Ikeda T | 婦人科 婦人科医師 | Peripartum Cardiomyopathy From a Genetic Perspective | Circulation Journal.2016AUG;80:1684-1688 | Review |

計78件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|-------|-----------------------|----|---------------|------|
| 1 | | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| ~ | | | | | |

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|--|---------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | 有・無 |
| ・ 手順書の主な内容 倫理委員会の運営、「委員会の責務」、「倫理審査予備調査」、「審査の方法」、「研究許可申請手続き」、「迅速審査」、「研究者等の責務」、「実施状況報告の審査」等 | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年 1 2 回 |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|--|-------|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | 有・無 |
| ・ 規定の主な内容 「利益相反マネジメントの対象」、「職員等の責務」、「利益相反マネジメント委員会所掌事項」、「調査結果に基づく処置」、「異議申立て」、「利益相反相談室の設置」等 | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年 4 回 |

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|--|-------|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年 3 回 |
| ・ 研修の主な内容 「医学系研究と個人情報保護」「臨床研究倫理の基礎」「改正個人情報保護法に基づく指針改正の方向」「終末期の倫理的考え方とDNAR指示」 | |

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

わが国の循環器病対策の一環として、循環器病診療に従事する医師に対し、高度の専門的知識及び技術を修得させ、技術・知識の向上を図ることを目的とする。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

| | |
|-------------|-----|
| 上記研修を受けた医師数 | 98人 |
|-------------|-----|

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|----------|------------|--------|-----------|
| 野口 暉夫 | 循環器内科 | 心臓血管内科部長 | 28年 | |
| 豊田 一則 | 脳血管・神経内科 | 脳血管部門長 | 30年 | |
| — | 精神科 | | | 研修プログラム無し |
| 黒岩 健一 | 小児循環器科 | 小児循環器部特任部長 | 30年 | |
| 小林 順二郎 | 心臓血管外科 | 副院長 | 37年 | |
| 市川 肇 | 小児心臓外科 | 小児心臓外科部長 | 33年 | |
| — | 整形外科 | | | 研修プログラム無し |
| 高橋 淳 | 脳神経外科 | 脳神経外科部長 | 26年 | |
| — | 皮膚科 | | | 研修プログラム無し |
| — | 泌尿器科 | | | 研修プログラム無し |
| 吉松 淳 | 産婦人科 | 周産期・婦人科部長 | 30年 | |
| — | 眼科 | | | 研修プログラム無し |
| — | 耳鼻咽喉科 | | | 研修プログラム無し |
| 福田 哲也 | 放射線科 | 放射線部長 | 22年 | |
| 大西 佳彦 | 麻酔科 | 手術部長 | 34年 | |
| | | | 年 | |
| | | | 年 | |
| | | | 年 | |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

| |
|--|
| ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意） |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 |
| ② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意） |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 |
| ③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況 |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：循環器病診療に従事する看護師、診療放射線技師、臨床検査技師及び臨床工学技士に対し、高度の専門的知識及び技術を修得させ、専門職員の技術・知識の向上を図ることを目的とする。・研修の期間・実施回数：13日間・1回/年・研修の参加人数：95名 |

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | |
|---------|--|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 (2.) 現状 |
| 管理責任者氏名 | 病院長 峰松 一夫 |
| 管理担当者氏名 | 総務課長：西岡 哲寿、医事室長：森田 健志、情報管理室長：恩地 俊夫、薬剤部長：老田 章 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|-------------------|--|---------------------------|---|
| 診療に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第二項に掲げる事項 | 病院日誌 | 平成24年1月より診療記録は電子保存（電子カルテ）としている。従前のカルテ、X線フィルム等については1患者1ファイル方式とし、集中管理している。診療録等の院外持ち出しは原則禁止としている。病院長の許可を得た場合のみ可能としている。 |
| | | 各科診療日誌 | |
| | | 処方せん | |
| | | 手術記録 | |
| | | 看護記録 | |
| | | 検査所見記録 | |
| | | エックス線写真 | |
| | | 紹介状 | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 人事課 |
| | | 高度の医療の提供の実績 | 医事室 |
| | | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 研究医療課 |
| | | 高度の医療の研修の実績 | 研究医療課 |
| | | 閲覧実績 | 情報管理室 |
| | | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事室 |
| | 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事室 薬剤部 |
| | | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療安全室 |
| 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療安全室 | |
| | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療安全室 | |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全室 | |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|------------------|-----------------------------|---|-------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 感染対策室 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染対策室 |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染対策室 |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染対策室 |
| | | 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 医療安全室 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 医療安全室 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 医療安全室 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療安全室 |
| | | 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 医療安全室 |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 医療安全室 |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 医療安全室 |
| | | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療安全室 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|--|-------------------------------|---|-------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況 | 医療安全室 |
| | | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 感染対策室 |
| | | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 | 医療安全室 |
| | | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 情報管理室 |
| | | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 情報管理室 |
| | | 医療安全管理部門の設置状況 | 医療安全室 |
| | | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | 研究医療課 |
| | | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 | 研究医療課 |
| | | 監査委員会の設置状況 | 医事室 |
| | | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 | 医療安全室 |
| | | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 | 医療安全室 |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医事室 |
| | | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 医療安全室 |
| 職員研修の実施状況 | 医療安全室 | | |
| 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 医療安全室 | | |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | | | |
|---------------------------|------------------------------------|------|--|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | ② 現状 | |
| 閲覧責任者氏名 | 医療情報部長：平松 治彦 | | |
| 閲覧担当者氏名 | 総務課長：西岡 哲寿、医事室長：森田 健志、情報管理室長：恩地 俊夫 | | |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 診療録等開示閲覧室 | | |
| 閲覧の手続の概要 | | | |
| 円滑な運用を確保するため、情報公開窓口を設置し運用 | | | |
| ① 開示申請者から所定の申請書提出 | | | |
| ② 申請書を受けて開示・不開示の決定 | | | |
| ③ 申請者に対し開示・不開示の決定通知書の送付 | | | |
| ④ 当該文書等の閲覧 | | | |

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|-------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0 件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 0 件 |
| | 歯科医師 | 延 0 件 |
| | 国 | 延 0 件 |
| | 地方公共団体 | 延 0 件 |

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-----|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 |
| <p>・ 指針の主な内容： 第1章【1.趣旨 2.医療安全の基本的な考え方 3.医療安全に係る安全管理のための委員会・組織に対する基本的事項 4.医療安全に係る安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 5.センターにおける事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 6.医療事故発生時の対応に関する基本方針 7.医療従事者と患者との情報共有に関する基本方針 8.患者からの相談への対応に関する基本方針 9.その他の医療安全の確保のための基本方針】、第2章から構成。第2章は、用語の定義、第1章2～9の実務的内容を記す。</p> | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 | |
| <p>・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年1～2回 ・ 活動の主な内容：ア)医療安全管理指針の制定、改訂に関する事。イ)医療安全管理に関する職員への教育・研修に関する事。ウ)医療安全確保を目的とした改善のための検討に関する事。エ)医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関する事。オ)医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関する事。カ)医療安全管理に関する研究、広報、院外活動に関する事。キ)医療安全上の訴訟に関する事。ク)診療に関する患者・家族からの意見、要望に関する事。ケ)その他医療安全管理に関する事等</p> | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年2回 |
| <p>・ 研修の主な内容： 全職員対象医療安全講習会 ・ 第1回「災害時における医療安全機器管理」 ・ 第2回「激変の医療環境の中、組織改革に求められるものは？」</p> | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：医療安全コア会議のメンバーがコメディカルを含む構成になっており、コア会議で検討した上、医療安全室委員会、推進担当者会議からの意見を集約し改善策を検討し、最終、医療安全委員会にて決定し職員へ周知している。</p> | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|---------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有・無 |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <p>① 院内感染対策に関する基本的考え方 ② 院内感染管理体制 ③ 職員研修 ④ 感染症の発生状況の報告 ⑤ 院内感染発生時の対応 ⑥ 患者への情報提供と説明 ⑦ その他の院内感染対策の推進</p> | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 1 2 回 |
| <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 院内感染症の調査、予防対策の立案 ② 予防対策実施の監視と助言、指導、勧告 ③ 職員の教育指導 ④ 院内感染対策の指針及びマニュアルの作成・見直し ⑤ その他委員長が必要と認める事項</p> | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 3 6 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>・ 感染性病原体の伝播予防の基本、 ・ 手指衛生の基本と咳エチケット、 ・ 高度医療を支える院内感染対策、 ・ 感染経路別予防策、 ・ 難治性感染症に対する抗菌薬治療</p> | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>感染対策室に報告がされ、感染対策室は感染対策委員会を開催し、原因究明及び感染拡大防止対策の立案を行う。加えて、必要に応じて現地調査を行い、状況を逐一院長に報告する。</p> | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|-----|
| ① 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年2回 |
| ・ 研修の主な内容： ・ 医薬品安全管理について ・ 麻薬等の取り扱いについて | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： ①医薬品の採用 ②医薬品の購入 ③調剤室における医薬品の管理 ④病棟・各部門への医薬品の供給 ⑤外来患者への医薬品使用 ⑥在宅患者への医薬品使用 ⑦病棟における医薬品の管理 ⑧入院患者への医薬品使用 ⑨医薬品情報の収集・管理・提供 ⑩手術・麻酔部門 ⑪集中治療室(ICU・NCU) ⑫輸血・血液管理部門 ⑬生命維持管理装置領域 ⑭臨床検査部門、画像診断部門 ⑮他施設との連携 ⑯事故発生時の対応 ⑰教育・研修 | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集。 院内webにてDIニュースとして発信。 重大情報・緊急情報については文書による回報を合わせて行い、各職員が伝達確認票に押印のうえ、専任医療安全管理者が回収し、伝達状況を確認している。 | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年135回 |
| ・ 研修の主な内容： ○第1回人工呼吸器講習会 (Servo i、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他) ○第2回人工呼吸器講習会 (Servo i、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他) ○第3回人工呼吸器講習会 (Servo i、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他) ○補助人工心臓勉強会 (Dura Heart、EVAHEART、Heart Mate II) ○PCPS講習会 ○IABP講習会 ○閉鎖式保育器講習会 ○着用型自動除細動器講習会 他 | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 保守点検計画表に基づき、臨床工学技士若しくは委託業者により定期点検を実施している。また各使用部署において外観、作動状況等の日常点検を実施している。 ○日常点検 (始業時点検・使用中点検・終業時点検) ○定期点検 (電気的安全点検・外観点検・機能点検・性能点検・定期交換部品等の交換等) ○故障時点検 (定期点検に準じた点検を行い故障箇所を特定する) | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品・医療機器安全情報をはじめ、メーカーからの提供情報、インターネットによる情報検索により、医療機器の安全使用関連情報を収集し、医療安全委員会等で資料を配付し、各職場で伝達している。 伝達状況については伝達確認票を回収し、確認している。 | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

| | |
|--|------------|
| ① 医療安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| <p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全担当副院長（医師）を医療安全管理責任者として配置している</p> | |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有（ 1 名 ）・無 |
| <p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書及びチェックリストを作成。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 新規医療評価室にて毎月委員会を開催し、申請内容の議論及び決定を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> | |
| ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 有・無 |
| <p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有 ）・無</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ：説明事項・説明範囲・成立要件・手順・留意事項について監査結果を委員会にて報告</p> | |
| ⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 有・無 |
| <p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：診療情報管理室長の監督のもと、診療情報管理士が診療録等を管理し、責任者の医療情報部長に報告している</p> | |

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有 無

・所属職員：専従（ 1 ）名、専任（ 3 ）名、兼任（ 4 ）名

うち医師：専従（ ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 1 ）名

うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名

うち看護師：専従（ 1 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

・医療安全の確保を目的とした改善のための検討に関すること

・医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること

・医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること

・重大な医療事故等の発生等委員長が必要と判断した場合は、適宜開催できるものとする。

・月に1回開催する医療推進委員会の重要伝達内容、インシデント・アクシデント報告、注意喚起をリスクマネージャーから各部門において、従事者全員に周知し、周知者の記名を行い、モニタリングを行っている。全職員を対象とした医療安全の研修会を年間2回以上開催し、受講状況を確認した。アンケート調査を実施し、医療安全に対する認識について、意識調査のモニタリングを行っている。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 無 ）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 無 ）

・活動の主な内容：申請手続き、審査の方法等

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 · 無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 · 無)
- ・活動の主な内容：申請手続き、審査の方法等
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 · 無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 · 無)

⑨ 監査委員会の設置状況

有 · 無

- ・監査委員会の開催状況：年 2 回
- ・活動の主な内容：医療安全部門の業務内容、インシデント・アクシデント事例報告・検討
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 無)
- ・委員名簿の公表の有無 (有 · 無)
- ・委員の選定理由の公表の有無 (有 · 無)
- ・公表の方法：病院ホームページ掲載

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|------------------|---------------|---------------------|--|---------------|
| 小島 崇宏 | 大阪 M&A 法律事務所 | ○ | 法律に関する識見を有する | 有 · <input checked="" type="radio"/> 無 | 1 |
| 國子 克雄 | 心を守る会 (患者代表) | | 医療を受ける者の代表 | 有 · <input checked="" type="radio"/> 無 | 2 |
| 友田 恒一 | 奈良県立医科大学附属病院 | | 医療に係る安全管理に関する識見を有する | 有 · <input checked="" type="radio"/> 無 | 1 |
| 安田 聡 | 国立循環器病研究センター副院長 | | 医療安全部外の立場から監査 | 有 · <input checked="" type="radio"/> 無 | 3 |
| 中瀬 邦彦 | 国立循環器病研究センター監査室長 | | 医療安全部外の立場から監査 | 有 · <input checked="" type="radio"/> 無 | 3 |
| | | | | 有 · 無 | |

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

| |
|--|
| <p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 115 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 0 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント・アクシデントの把握 ・特定機能病院の承認要件に関する検討と決定 |
| <p>⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：京都府立医科大学附属病院）・無 ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：大阪国際がんセンター）・無 ・技術的助言の実施状況 H29. 10. 16 立入り、H29. 12. 12 に立入り受入れ予定のため現時点未実施 |
| <p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <p>患者相談窓口を設置し、平日の 8：30～17：15 に外来 1 番窓口にて対応する。また、窓口設置について院内掲示もしている。</p> |
| <p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） |
| <p>⑭ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 新採用者研修として、当院におけるインシデント・アクシデント発生状況と特徴、発生時の報告方法、インフォームドコンセントや医療安全に関連する記録記載時の注意点についての説明、インシデント発生後の改善策としての院内ルールについて説明を実施。 <p>年 2 回実施する医療安全研修は前年度の研修時に実施したアンケートに基づき、講師を招き全職員を対象に実施。理解についてはアンケートにより把握している。</p> |

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

様式 8-6 (経過措置) 提出済

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

| | |
|--|-----|
| ① 病院の機能に関する第三者による評価の有無 | 有・無 |
| ・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による病院機能評価 平成27年6月5日認定(平成27年3月11、12日受審) | |

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

| | |
|---|-----|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無 | 有・無 |
| ・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページで循環器に関する主な疾患について、その原因や治療法などについて分かりやすく紹介している。 定期的に市民公開講座を開催し、循環器疾患かかる情報提供・啓蒙活動を実施している。 | |

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

| | |
|--|-----|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無 | 有・無 |
| ・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 各診療科にコンサルティングドクターを設けており、速やかな連携を図っている。 | |